

質問日	平成30年 6月12日(火)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	公明党	議席番号	20	氏名	幸田 恵里子
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 幼児・児童の支援体制について (1) MIMの導入について (2) 支援の必要な子の引き継ぎと入学後の支援について	(1) 子どもが学習でつまづく前に手を差し伸べるために日本の教育に合わせて開発されたMIMという指導モデルがある。全ての学習のもととなる「すらすらとした文字の読み」を習得させるため、指導方法と教材とテストがセットになっている。既に10年以上の実践を経て、国語力の向上はもちろんのこと、算数を初め全教科の学力の向上に有効であることがわかっており、何より子ども達が喜んで取り組み、教師も指導法と教材のセットで指導を行うことができるので負担も少ないとの評価も得ている。 そこで、本市としても確実に効果が上げられるような指導法を導入し、子ども達が学習でつまづく前に手を差し伸べ、学力を保證できるような学習方法を取り入れていくべきと思うが、以下2点伺う。 ア 新小学1年生への読み書き定着への取り組み、さらに課題について伺う。 イ MIMの導入の見解について伺う。 (2) 昨年度から児童発達支援事業所から小学校に入学する子どもが、これまでどのような支援を受けて、できていること、苦手なこと、配慮して上手くいったことなどが記載できる「サポートかけはしシート」の使用が開始され、小学校入学後に活用されている。また、支援の必要な子ども達のために、早期からの教育相談、就学相談を充実させることが必要であると言われていたことから、支援の必要な子どもたちが小学校に入学する前に、就学先を検討する就学相談において、把握することができる発達の課題や教育的ニーズ等の情報を入学後の支援に活かすべきだと考える。そこで、以下2点伺う。 ア 「サポートかけはしシート」の、入学後の活用状況と今後の取り組みについて伺う。 イ 幼児の就学相談の現状と相談結果の引き継ぎ、また、今後の取り組みについて伺う。					花井教育長	
2 児童・生徒の安全管理について (1) 暴風雨時における登下校のあり方について	(1) 近年、温暖化による気象状況の変化が著しく、強風や強い雨に危険を感じることもある。台風以外の暴風雨でもがけ崩れや河川の増水による被害も出る中、特に登下校時に暴風雨が重なると児童・生徒への危険が伴うこと					伊熊学校教育部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) 登下校時における見守り体制のあり方について	<p>がある。そこで、本市として気象情報を見てどのように判断し対応しているのか。また、4月25日のときに、大雨警報と登校時が重なった場合などの判断について、以下2点伺う。</p> <p>ア 台風などの暴風警報発表時が登下校時に重なる場合の判断はどのようになっているか伺う。</p> <p>イ 大雨警報が発表されている中、登下校時に危険がある場合は、学校の独自の判断や保護者の判断で時間を遅らせること等ができるのか。また、その場合の周知方法を伺う。</p> <p>(2) 先月5月7日に起きた新潟市の小学2年生の女兒殺害事件は、下校時のひとりになったほんの少しの間に連れ去られ殺害された、残酷で許せない事件である。本当に子どもの命を守る見守り体制を今一度考えさせられた。そこで、以下2点伺う。</p> <p>ア 本市の子どもの見守り体制の現状と課題について伺う。</p> <p>イ 不審者が出た場合の対応など、より安全安心な見守り体制の構築に向けて、今後どのように取り組んでいくのか伺う。</p>	
3 8050 問題を含む家族支援について	<p>今国会に提案されている、生活困窮者等の自立を促進するための自立支援法の改正案では、困窮の概念の範囲を拡大している。経済的貧困のみならず、社会的孤立にも目を向けた支援体制が必要となっている。福祉による支援制度は申請主義で、本人が問題と思わなければ相談にも繋がらない状態をどのように解決していくのか。そこに寄り添う支援ができる仕組みはないのか以下2点伺う。</p> <p>(1) ひきこもりなど、社会的に孤立してしまった人のいる世帯に対し、どこが窓口となり、どのように対応しているのか伺う。</p> <p>(2) 8050 問題のような、家族丸ごとの支援が必要な場合、本市として今後どのような支援策を考えているのか伺う。</p>	朝月健康福祉部長
4 いのちの教育の場としての新たな動物園を目指して	<p>動物園における、いのちのふれあいゾーン整備事業の実施設計に本年度、約3000万円の予算が計上され、来年度、再来年度に整備工事を行う計画である。動物虐待や犬・猫の殺処分ゼロ、災害時の家畜やペットの避難などについても、大人や子ども、もしくは親子で学び、触れることができる、いのちの教育の場として大変期待される。</p> <p>昨年、我が会派の黒田議員による犬・猫の殺処分ゼロを目指す質問に対して、殺処分を減らすためには、飼主のいない子猫を繁殖させない取り組みが重要であり、</p>	伊藤花みどり担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>地域猫の不妊・去勢手術への支援に力を注いでいくとの答弁があった。</p> <p>野良猫を地域猫として愛される存在にするためにも、また次世代の子ども達へ命の尊さを教えるためにも、地域の人々の正しい理解と関係機関との連携が大切だと感じる。そこで、以下3点伺う。</p> <p>(1) いのちのふれあいゾーンをどのように整備して、いのちの教育に結びつけていくのか伺う。</p> <p>(2) 地域猫への理解啓発や飼育指導をどのように普及させていくのか、またいのちの教育の取り組みと課題を伺う。</p> <p>(3) 市民協働支援事業での不妊・去勢手術に対する負担金の継続について、また寄附金を募る方法について伺う。</p>	
<p>5 就労への取り組みと福祉的支援について</p> <p>(1) 本市の障がい者雇用状況について</p> <p>(2) 就労と福祉の繋がりについて</p> <p>(3) 新たな障がい者支援について</p>	<p>(1) 現在の正規職員と臨時も含む非常勤職員の現状について以下3点伺う。</p> <p>ア 本市の市長事務部局の障がい者雇用状況を障がい別に伺う。</p> <p>イ 他の職員への理解啓発、環境整備、継続支援、仕事内容のマッチングも含めどのように取り組んでいるのか、また課題も伺う。</p> <p>ウ 29年度に策定された障がい者計画の中で、雇用促進の取り組みとして、障がいのある人を対象する職員採用試験、職員選考の実施とあったが、どのように採用していくのか伺う。</p> <p>(2) 定期的に企業訪問や企業からの相談を受けることで、早期につまずきを発見し、企業側からの相談に対し適切なアドバイスができる体制の構築により、就労が定着していくことに繋がる。そこで、以下3点伺う。</p> <p>ア 女性や若者への就労支援の取り組みを伺う。</p> <p>イ 障がい者の定着支援に関する事業実施の現状を伺う。</p> <p>ウ 障害者就労支援機関を経ずに就職した場合の相談窓口について伺う。</p> <p>(3) 今年度の制度見直しによりバス・タクシー券等の交付対象外となった障がい者に対し、新たな支援を進めていくのか伺う。</p>	<p>川嶋総務部長</p> <p>渡瀬産業部長</p> <p>朝月健康福祉部長</p>
<p>6 自助・共助を高める取り組みについて</p>	<p>本市は自助・共助の視点において、家具固定の啓発や防災リーダーの研修に取り組んでいるが、その成果が上がっていないように感じる。そこで以下3点伺う。</p> <p>(1) 防災リーダーに期待する役割について伺う。</p> <p>(2) 防災リーダーの養成について現状の取り組みと、受講</p>	<p>宮城危機管理監</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>者の男女別人数、課題及び今後の見解を伺う。</p> <p>(3) 市民アンケートによると「家具の固定をしている世帯」は約63%であり、近年横ばいの状況にある。市は「固定していない世帯」に対して家具固定を推進するために、今後どのような取り組みを行うのか伺う。</p>	